



キャッチフレーズ

## 「チンドン」の街、萩原

## 事業実施の背景

かつて美濃路街道の宿場町として栄えた歴史を感じさせる、落ち着いた雰囲気のある商店街。しかし、毎年5月の「チンドン祭り」には、数万人の人で溢れる街に変身する。

春の大売出しにあわせて各店主が女形など思い思いの衣装を行ったのが始まり。商売の繁忙に伴い、プロのチンドンによる各店舗の宣伝とともに、その技能を競うイベントとして実施したところ好評を得て、既に40年以上続く、商店街単独の主催による祭りとしては一宮市内で最大規模のイベントとして定着している。

## 事業の概要

## 【チンドン祭り】



プロのチンドンチーム20チーム約100名が、スポンサーとなった商店の宣伝を行うとともに、ステージ上で宣伝を繰り広げ、商店街を練り歩き、コンクール形式でその技能を競う。

現在では、プロのチンドンチームが一堂に集うお祭りは、全国的にも珍しい。19年春のチンドン祭りには4万人の人出があり、県外からも多く訪れる。

これだけの規模の祭りを商店街単独で主催、チンドンの出演依頼、宿泊手配、実施に伴う道路使用許可など警察や所管官庁への申請、当日の案内、ごみ処理、後片付けまで、企画・準備、運営の全てに亘り店主自らで行っており、まさに商店街総出、一丸となって取組んでいる。

秋の「素人」チンドン祭り（毎年10月）

最近、春の「プロ」のチンドンに対して、秋には「アマチュア」によるチンドン祭りを開催、こちらの人気も高く、2万人を超える人出がある。

## 事業の効果

40年という伝統があり、一宮市では「チンドンの街、萩原」として定着。商店街のお祭りの域を超えた地域の文化行事となっている。最近ではそのレトロな雰囲気が親しまれてきたことも手伝って、遠く東北、九州からも観客が訪れる。イベント時にステージ上からアンケートを行ったところ、お客様の半数以上が、県外からの来訪者であった。人出も昨年までは3万人、今年は4万人を越えており、「萩原」の認知度向上、イメージアップに十分に寄与している。

また、チンドン祭りを通じて商店街の存在が比較的広く認知されていることもあり、商店街の商圈は比較的広く、尾西方面からなど、通常時の来街者増にもつながっている。

## 事業の課題

- ・ 事業規模の拡大に伴い、資金面および運営上の人手などが課題。
- ・ 高齢化の波は当商店街にも例外なく押し寄せている。昨年から、若い理事長にバトンタッチし若返りを図るとともに、伝統およびノウハウの継承を図ろうとしている。
- ・ 一商店街のお祭りではなく市民の関心の高いイベントに成長していることから、市、商工会議所、周辺の教育機関、団体との連携をより強固なものとし、更なるイベントの充実拡大を図っていく。

### 商店街の基本データ

名称：一宮市萩原商店街振興組合

理事長 岩田晴季

所在地：〒491-0353

一宮市萩原町河原崎79

電話：0586-68-0034

構成員：約120名

URL：<http://www6.ocn.ne.jp/~chindon/>

